

## (臨床研究に関する公開情報)

公立陶生病院では、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、この研究に検体やカルテ情報を利用することをご了解できない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名] 強皮症関連間質性肺疾患 (SSc-ILD) における臨床的・免疫学的・分子生物学的解析

[当院研究責任者] 部署名 呼吸器アレルギー疾患内科 氏名 片岡 健介

[研究の背景] 全身性強皮症 (SSc) は自己免疫疾患であり、間質性肺疾患 (ILD) を高頻度に合併しますが、その病態メカニズムには未だ不明な点が多く存在しています。本研究では、疾患の免疫学的・分子生物学的解析を通じて病態を明らかにすることを目的としています。

[研究の目的] SSc-ILD 患者の血液、気管支肺胞洗浄液 (BAL)、肺の残余検体を用いて多面的な解析を行い、疾患の詳細な病態を明らかにし、新規バイオマーカーおよび治療ターゲットを探索します。

[研究の方法] ●対象となる患者さん 2007年1月から2024年12月の間に公立陶生病院で外科的肺生検を受けた SSc-ILD の患者さん

●研究期間： 倫理承認後～2030年12月31日まで

### ●利用する検体、カルテ情報

(検体) 保存された肺組織、血液検体、気管支肺胞洗浄液 (BAL)

(カルテ情報) ・患者背景 (年齢、性別、喫煙歴) ・強皮症に関する情報 (罹病期間、治療歴) ・呼吸機能検査結果 ・胸部 CT 画像所見 ・治療経過や予後に関する情報

### ●利用する検体、カルテ情報の管理

当院で保存された検体および診療情報を匿名化したうえで、英国ロンドンのロイヤルフリーホスピタル (Royal Free Hospital) にて追加の解析を実施します。また、カルテ情報は基本的な病理組織評価、プロテオミクス、メタボロミクス、トランスクリプトミクス解析に使用されます。

[研究組織] この研究は、英国ロンドンのロイヤルフリーホスピタル（Royal Free Hospital, University College London (UCL)）及び愛知医科大学との共同で行われます。研究で得られた情報は、共同研究機関内で利用されることがあります。

研究代表者（研究の全体の責任者）： 公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科 山野 泰彦

共同研究機関： Centre for Rheumatology and Connective Tissue Diseases, Royal Free Hospital, University College London (UCL), London, United Kingdom

研究協力者： Voon H. Ong, David Abraham

共同研究機関： 愛知医科大学 呼吸器アレルギー内科

研究協力者： 山野 泰彦、武井 玲生仁、近藤 康博

[個人情報の取扱い]

研究で利用する検体や情報には個人情報が含まれますが、氏名や住所など個人を直ちに判別できる情報は削除し、研究用の番号を付けます。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できる情報は一切利用しません。検体や情報は、当院の研究責任者および共同研究機関が責任をもって適切に管理いたします。

[問い合わせ先]

公立陶生病院 所属部署 呼吸器・アレルギー疾患内科 氏名 片岡 健介

電話 0561-82-5101 FAX 0561-82-9139